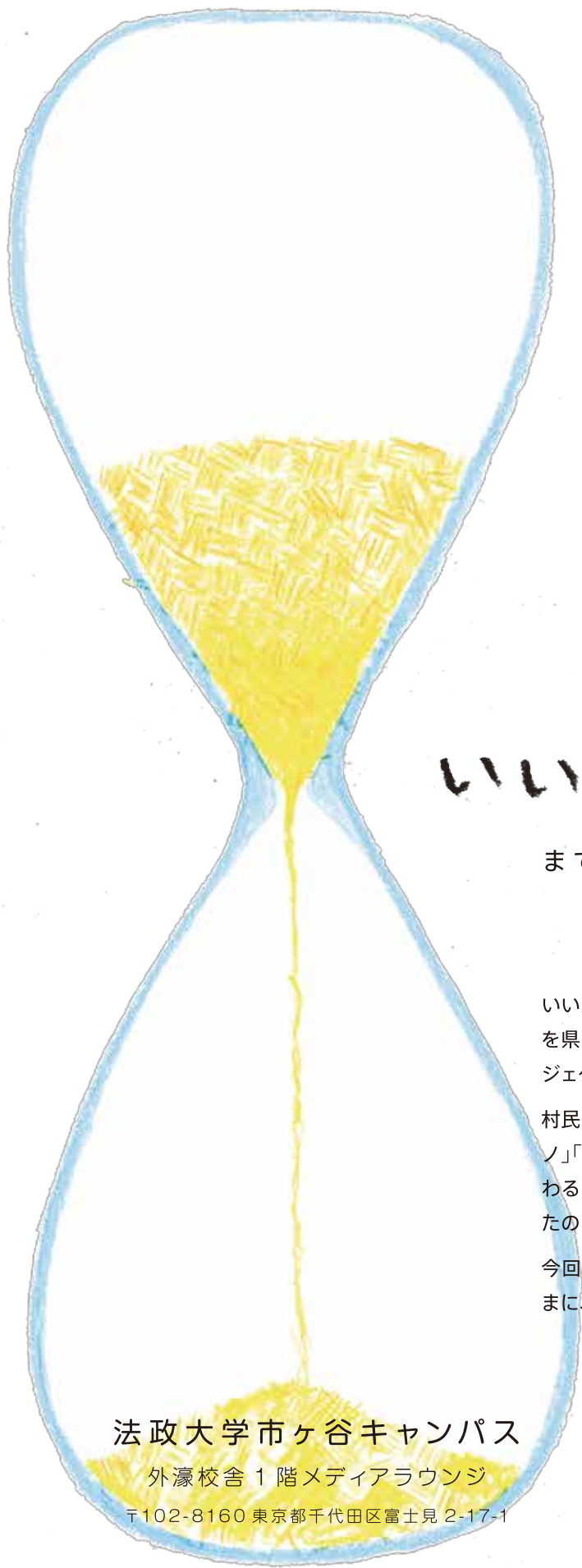




「モノ」語る



2014

巡回展



いいたてミュージアム

までの未来へ記憶と物語プロジェクト

いいたてまでの会

いいたてミュージアムとは、飯舘村のこと、飯舘村に起こったことを県内外に広く発信し、未来の世代へも伝えていこうというプロジェクトです。

村民のみなさんのお宅へお伺いし、みなさんにとっての「古いモノ」「大事なモノ」「歴史的なモノ」を見せていただき、それにまつわるお話を集めてきました。「モノ」にまつわるお話から見てきたのは震災前の豊かな村の姿でした。

今回初めて福島県外での巡回展を行います。ご覧いただくみなさまに、「モノ」が語る力から、村の姿をお伝えできればと思います。

法政大学市ヶ谷キャンパス

外濠校舎 1 階メディアラウンジ

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

12 月

OPEN 12.00-18.00

木	金	土	日	月	火	水
11	12	13	14 ↓ 休み	15	16	17

TALK

主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、法政大学国際文化学部

平成 26 年度 福島県地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業） 平成 26 年度文化庁地域と共創した美術館・歴史博物館創造活動支援事業 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014 飯舘村の歴史・暮らしの記録プロジェクト



福島県相馬郡

飯舘村

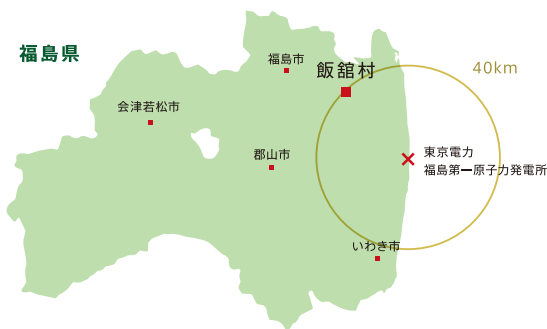


飯舘村は、福島県阿武隈山系北部の高原に開けた豊かな自然に恵まれた美しい村です。

総面積 230.13 キロ平方メートルの約 75%を山林が占めた地形は比較的なだらかで、北に真野川、中央に新田川と飯樋川、南部に比曽川が流れその流域に耕地が開かれ集落を形成しています。

年平均気温は約 10 度、年間降水量 1,300mm 前後で高原地帯独特の冷涼な気候にあります。

2010 年 10 月には「日本でもっとも美しい村」連合の加盟を果たしました。



地理：東京駅から福島駅まで、新幹線で約1時間半、距離 270km ほど



2014.5.20 飯舘村 手前の田んぼは放置されている



東日本大震災

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンによる放射能飛散の被害により、事故から 1 カ月あまりを経た 4 月 22 日、懸命に被災者を受け入れていた飯舘村は、突然、計画的避難区域に指定され、五月末には全村避難に至りました。6,000 人あまりの村民は、丁寧に誠実に暮らしを紡いできた美しい村を、放射線量の高さゆえに避難を余儀なくされたのです。

2014 年の村民の避難状況

2014 年 10 月 1 日現在、6,697 人の村民のうち県内避難者数 6,156 人、県外避難者数 480 人、飯舘村内 59 人(未避難者 12 人を含む)、不明 2 人。

県内 9 か所(福島市、伊達市、相馬市、国見町)の仮設住宅では、高齢者を中心に 1,092 人が生活しています。



2014 除染の様子、地表は削られている。集めた汚染土の最終処分場は決まっておらず、村内の収集場所に汚染袋がぎっしりと詰め込まれている。



旧明治小仮設住宅



までいとは
真の手(両方揃った手)が語源。
「手間ひまを惜みず」「丁寧に」
「心をこめて」「つつましく」という意味で使われる方言

いいたてまでの会 事務局

Iitate madei Association

〒960-8031

iitate-madei.jp

福島県福島市栄町 10-3 キッチンガーデンビル3F

TEL : 070-5622-4982 FAX : 024-573-2414

MAIL : iitatemadei@gmail.com

TALK

飯舘村民の長正さんをお迎えして、震災前、震災後の今の飯舘村のお話を伺います。

独自の村づくりを続けていた中で全村避難を余儀なくされた福島県飯舘村と、飯舘村の暮らしや文化を「モノ」の力を借りて発信していこうとする、いいたてミュージアムについてのトークです。

12/17

法政大学市ヶ谷キャンパス
外濠校舎3階 S305教室

時間 11:10-12:40 「メディアと社会」講義内

ゲスト 長正 増夫(飯舘村民・元副村長)

聞き手 稲垣 立男(法政大学 国際文化学部教授)

坂内 まゆ子(いいたてまでの会)